

和尚は「喜哉 喜哉 大魔比丘速に成仏為せよ」と小僧と下僕を引連れ、ゆうゆうと寺に帰ったという。

(「長沼名義考」より)

弥吾坂の何身の妖怪

《長沼》

弥吾坂(長沼より小中に通ずる旧道)には、何身という妖怪が出たという。狐とも狸ともいうが定かでない。この化物は往来の人の前に、女の姿で出て「何の身になるべきぞ」とくり返し、くり返し悲しげに語るといふ。よって何身とは化物に付けた字名であるという。

ある人、小中村からこの坂を越す時、この何身に出会ったが、豪気な人なので少しも驚かず、「何の身にでもなれ」と言い捨てると、妖怪も何もせず近寄らなかつたという。

この化物の悲しみ叫ぶ声を聞いた人は数あるといわれる。

(「長沼名義考」より)

弥吾坂

